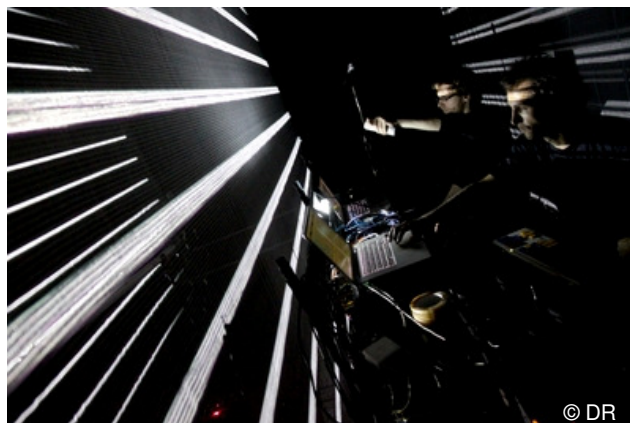




2015年12月16日
アンスティチュ・フランセ東京

第5回「デジタル・ショック」 -フュチュラマ (未来展望) - 開催



アンスティチュ・フランセ東京は、2016年2月19日(金)～3月21日(月)、メディアアートのフェスティバル「**デジタル・ショック- フュチュラマ (未来展望) -**」を開催します。

第5回目を迎える2016年は、アーティストたちが、私たちの未来像にどのようにアプローチし、表現をしているのかをご紹介します。発表される作品は、人工知能やバイオテクノロジー、ロボット工学などに対する期待と不安など、様々なことを語りかけてくるでしょう。対する私たちは、未来に対してどのような展望が持てるのでしょうか。

メディアアートという新しい分野における日仏間の文化交流と、そこから生まれる刺激的で創造性豊かなプログラムにどうぞご期待ください。

***平成27年度[第19回]文化庁メディア芸術祭協賛事業**

【イベント開催概要】

会期 | 2016年2月19日(金) - 3月21日(月)

会場 | アンスティチュ・フランセ東京ほか

主催 | アンスティチュ・フランセ日本

助成 | アンスティチュ・フランセ パリ本部

協賛・協力 | 全日本空輸株式会社、文化庁メディア芸術祭、Media Ambition Tokyo、AMIT (Art Media & I Tokyo)、オーストリア大使館、Scopitone、Seconde Nature、BRDG、ギャラリー ATSUkobAROUH arts drinks talk、SuperDeluxe、飛騨の森で熊は踊る

Web | <http://www.institutfrancais.jp/digitalchoc/>

プレスリリース COMMUNIQUÉ DE PRESSE

【デジタル・ショックについて】

「デジタル・ショック」は、メディアアートや映像分野での、日本とフランスでの新たな創造性の広がりを紹介するフェスティバルです。これまでも毎回述べ 10,000 人以上の来場者に対して、数多くの先進的な作品を紹介してまいりました。

2015-16 年度は「日仏イノベーション・イヤー」として定められ、科学技術分野のみならず、文化や芸術分野においても、日仏間でのより活発な協力促進が期待されています。「デジタル・ショック」においても、メディアアートに関連した国内の主要機関やフェスティバル（文化庁メディア芸術祭、Media Ambition Tokyo、AMIT）、さらにフランスのフェスティバル（ナント市 Scopitone）ともパートナーシップを組み、規模を広げて展開していきます。

【組織概要】

組織名：アンスティチュ・フランセ東京 Institut français du Japon - Tokyo

所在地：〒162-8415 東京都新宿区市谷船河原町 15

代表者：館長 ジャン＝ジャック・ガルニエ

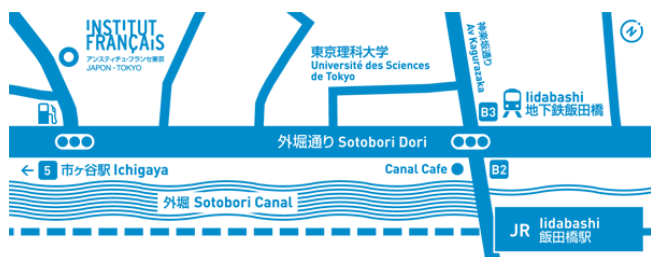
主な事業内容：語学学校・文化センター（フランス政府公式機関）

代表 TEL：03-5206-2500 代表 Email：tokyo@institutfrancais.jp

URL：<http://www.institutfrancais.jp/tokyo/> Facebook：<https://www.facebook.com/IFJTokyo>

【メイン会場アクセス】

最寄り駅 | 飯田橋駅（JR 総武線、東京メトロ有楽町線・南北線・東西線、都営地下鉄大江戸線）
駅からの所要時間（徒歩） | JR 西口より 7 分・地下鉄 B3 出口より 7 分



【プレスリリースに関するお問い合わせ】

アンスティチュ・フランセ東京 広報&メセナ 山下（やました）、堤（つつみ）

TEL：03-5206-2552（直通） FAX：03-5206-2861

Email：tokyo.communication@institutfrancais.jp

※広報用画像をご希望の場合は上記担当者までお問い合わせください。

プレスリリース COMMUNIQUÉ DE PRESSE

【主なプログラム】

- * 詳細の全プログラムを掲載したパンフレットは2016年1月初旬に発行の予定です。
- * プログラムはやむを得ぬ事情により変更されることがあります。予めご了承ください。

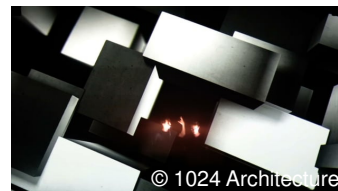
<オープニング>

■ 1024 アーキテクチャー、アレックス・オジエ、ほか（ライブ）

【日時】 2月19日(金) 20:00～ **【会場】** SuperDeluxe

【料金】 当日一般 ¥3,500、前売り/学生 ¥2,500 **【共催】** BRDG

アートと建築、身体と空間、ハイテクノロジーとローテクノロジーなど、境界を行き来する作品を発表し、国際的にも高い評価を得ているフランス人アーティスト「1024 Architecture」をはじめとした、ヨーロッパと日本のアーティストによる映像と音楽のパフォーマンス・ライブ。



1024 アーキテクチャー (1024 architecture)

国際的にも高く評価されているクリエイティブ・レーベル。建築的なアプローチによる分野横断型のオーディオビジュアル・インスタレーション作品を次々と発表。ハイテクノロジーとローテクノロジー、身体と空間、サウンドとビジュアル、アートと建築など、境界を行き来する作品を打ち出している。<http://www.1024architecture.net/>

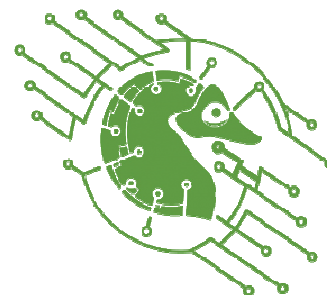
■ Bio-fiction 科学・芸術フィルムフェスティバル（映画）

【日時】 2月20日(土)・21日(日)

【会場】 アンスティチュ・フランセ東京 エスパス・イマージュ

【共催】 在日オーストリア大使館／協力：[metaPhorest](#)

Bio-Fiction 科学・芸術フィルムフェスティバルは、2011年より始まった、「合成生物学」という新しい分野に焦点を当てた国際的なフィルムフェスティバルです。文化・芸術、科学や工学、社会科学の研究者や、生物学の愛好者、映画監督、アーティストやデザイナーなど、さまざまな分野から参加者が集い、日本とフランス、そしてヨーロッパにおける、科学と芸術の未来や、サイエンスフィクションについて意見交換が行われます。



登壇者：八代 嘉美（京都大学 iPS 細胞研究所上廣倫理研究部門特定准教授）、ダヴィッド・バンケ David Benqué（フランス人アーティスト、ロンドンロイヤルカレッジ・オブアート研究員）、マークス・シュミット Markus Schmidt（オーストリア、Bio-Fiction フェスティバル創設者・主催者）、岩崎秀雄（早稲田大学理工学術院・教授）

■アラン・ビュブックス『未来は存在しない』（インスタレーション）

【日時】 3月5日(土)～27日(日)

【会場】 ギャラリー ATSUKOBAROUH arts drinks talk

【料金】 ¥500（ドリンク付）**【協力】** 飛騨の森で熊は踊る

コンテンポラリー・アーティスト、アラン・ビュブックスにとって「未来は存在しない」。もっとも、未来はこれまでに一度も存在したことがない。大事なことは先を見据えること、つまり「前未来」（過去となった未来、実現しない未来）であり、ビュブックスはこの「前未来」を具体化することに喜びを見いだす。日本の工芸デザイナーとのコラボレーションのもと、風景や家具やイメージを用いながら、空間を構成するプロジェクト。



プレスリリース COMMUNIQUÉ DE PRESSE

アラン・ビュブレックス (Alain Bublex)

1961年リヨン生まれ。マコン美術学校、パリ国立高等工業デザイン学校にて学ぶ。工業デザイナーとして、自動車会社で働いた経験を持つ。

■ SATI 『リック・ザ・キューブ 時の冒険』(シネマコンサート)

[日時] 3月19日(土)~21日(月) [会場] 座・高円寺

[料金] 一般¥2,500、こども(小学生以上) ¥1,500、未就学児¥500

[提携] NPO 法人劇場創造ネットワーク/座・高円寺

ニワトリから生まれた四角いタマゴのリックの大冒険。アニメーション映像に、アコースティックやエレクトロミュージック、さまざまサウンドや特殊効果が加わった、大人も子ども楽しめるライブパフォーマンス。



SATI

エルワン・ラゲン (Erwan Raguenes) とジェス・リュカ (Jesse Lucas) によるユニット。

エルワン・ラゲンは、クラシック音楽の教育を受けたピアニストであり、マルチプレイヤーでもある。早くからエレクトロニック・ミュージックに惹かれ、とりわけオーディオ・ビジュアル・プロジェクトの音楽制作に関心を持ち始める。現在は、サウンドトラックの制作など、自らのエクリチュールを映像と関連させて発展させることに力を注ぎ、自らプログラミングも行う。

ジェス・リュカは、フランスのVJの先駆者であり、フランスのVJ情報サイト、VJFRANCEの創設者。そのオーディオ・ビジュアル作品制作の才能と舞台への嗜好を活かし、ヨーロッパの様々なクラブやフェスティバルに出演。オリイ&ボリウッド・オーケストラの専属VJであり、その全てのビジュアル世界を担当・制作した。

デジタル・ショック賞 参加プロジェクト募集のお知らせ

デジタル・ショック賞は、メディアアートにおける若き才能の発掘のため、2015年に創設されました。2016年は、フランス・ナントのフェスティバル「Scopitone」と共同で、メディアアートのプロジェクトを募集します。プロジェクト企画書をもとに選考委員会が日本人アーティスト1名を選定し、受賞者には、2016年9月に開催されるフェスティバル「Scopitone」での作品発表の機会が与えられます。

- ・応募開始：2016年2月～
- ・詳細の募集要項は右記のサイトでご確認ください。 <http://www.institutfrancais.jp/digitalchoc/>

【2015年の受賞プロジェクト】 Goh Uozumi 『Trustless Trust』

多摩美術大学情報デザイン学科教授 港千尋、フェスティバル「Seconde Nature」ディレクター マチュール・ヴァーブル、フェスティバル「デジタル・ショック」実行委員会によって選出されました。フランスでの滞在制作による新作は、第5回「デジタル・ショック」にて発表される予定です。

